

会 議 概 要

第2回 【山滝校区】学校適正化に向けた校区懇談会	
<p>《開催日》令和4年10月27日（木曜日）</p> <p>《時 間》19：30～20：45</p> <p>《場 所》内畑町会館</p> <p>《参加者》地域参加者：8名 教育委員会事務局：7名</p>	
<p><議題等></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 事務局挨拶 3 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 事務局からの説明事項について (2) 意見交換 	
事務局	<p>（別添資料に沿って内容を説明）</p>
参加者	<p>山直南校区の校区懇談会が現時点でも設置されてないと同っている。今後も懇談会が設置されず、協議が進まない状況が続いた場合、山滝校区は山滝校区で検討を進めてよいのか。</p>
事務局	<p>ご指摘のとおり、山直南校区については現在も校区懇談会を設置できていない状況。</p> <p>そのような中、山滝校区については、前回懇談会の資料でお示したとおり、複式学級の可能性も見込まれており、小規模化による課題の解消に向けて取り組んでいかなければならないと認識している。</p> <p>子どもたちに良好な教育環境を保障していくためにも、この懇談会を通じて様々な方策を検討していきたいと考えている。</p>
参加者	<p>現時点では、山滝校区の望ましい形を検討するということがよいのか。</p>
事務局	<p>山滝校区の子どもたちのより良い教育環境についてご意見をいただければと考えている。現時点で教育委員会から実施計画（案）の修正や変更は考えていない。</p>
参加者	<p>子どもの数が減少する中、今後は小中一貫校を描いていくことがより良</p>

	<p>い形ではないかと考える一方、山直南校区の状況を踏まえると非常にジレンマを抱えている。</p>
参加者	<p>他の校区懇談会の状況はどうか。</p>
事務局	<p>まず（仮称）葛城小中一貫校に関係する校区として、通学区域の見直しをお示ししている常盤校区、旭・太田校区においては、仮に実施計画（案）の再編がなされた場合は調整区域を設定し、現状の通学校と再編校を選択できる方向性で議論を進めてきており、両懇談会ともに概ねご理解を頂いているものと認識している。次に修斉校区では、市街化調整区域であり、自然豊かな環境が地域の魅力でもあるため、これを活かして学校の存続ができないかといったご意見等をいただいているところ。東葛城校区については、12月の中下旬頃の第1回懇談会開催に向けて、現在日程調整を行っているところ。天神山校区については校区から合意を得ることができず、懇談会の設置に至っていない。</p> <p>（仮称）山直小学校に関係する校区として、山直北・城東校区について、特に城東校区のメンバーの方からは、城東小学校が小規模化している一方で、校区の一部地域では子どもの数も増えている状況であり、城東小学校としてもまだ存続できるのではないかというご意見も伺っているところ。</p> <p>山直南校区については先ほど申し上げたとおり、校区から合意を得ることができず懇談会の設置に至っていない。</p>
参加者	<p>山直南校区の町会が、山直南小学校が閉校にならない旨のチラシを配布したと伺っている。市としてこれはどのように捉えているのか。</p>
事務局	<p>地域が自主的に作成する文書等に教育委員会が意見することは難しいが、現在の実施計画（案）について、教育委員会が主体的に修正・保留・撤回するといった考えは表明していない。山直南校区、天神山校区については、懇談会が設置できていないことで、再編にかかる検討が結果的に保留の状態、進んでいない状態になっているという現状である。</p>
参加者	<p>各校区では小規模校だが存続を希望する意見もあり、これではそもそも再編の取組の原点の議論に戻る事となる。なかなか難しい取組である。</p>
事務局	<p>教育委員会としても、小規模校の良さも認識している一方、やはりその課題の方が大きいものと考えている。各校の配置バランスを考慮し、一定</p>

	<p>の集団規模を確保した上で子どもたちの教育環境をより良いものにしていきたいという考え方は今後も変わらず説明していく。</p>
参加者	<p>繰り返しになるが、当懇談会としては、他の校区の動向に関わらず山滝校区の今後のあり方について検討を進めるということによいか。そこを整理しないと我々としても協議のしようがない。</p>
事務局	<p>ただいまのご意見のとおり、当懇談会では山滝校区の子どもたちのより良い教育環境について検討していきたいと考えている。</p>
参加者	<p>個人的な意見として、人口減少が進む中、一番は子どもたちが通いたいと思う学校を作っていただきたい。魅力ある素晴らしい学校をすることで人口の流入も期待できる。</p>
事務局	<p>教育委員会としても同じ考えである。子どもたちが通いたい、保護者の方が通わせたいと思う魅力ある新しい学校をつくることで、転入促進にもつなげていきたい。</p>
参加者	<p>教育委員会には、今の方向性や考え方のままブレずに取組を進めていただきたい。</p> <p>一点、小中一貫校案における特認校制度の導入については課題が大きく、地域から反対の声もあるのでとは考えている。この部分は外すわけにはいかないのか。</p>
事務局	<p>特認校制度については、地域の皆様のご理解とご協力を前提に成り立つものと考えており、実施計画（案）の中でも、特認校制度の導入を検討すると記載している。よって今後の地域の皆様との話し合いを踏まえた結果、特認校制度については導入しないという選択肢ももちろんありえるものと考えている。</p>
参加者	<p>泉北郡山滝村から岸和田市に編入される際、山滝地域に支所を継続的に設置するといった約束が交わされたようだが、学校については当時そのような約束はなかったか。</p>
事務局	<p>担当課に確認したが、学校については当時、特段の取り決め事項はなかったものと伺っている。</p>

参加者	<p>小中一貫校の整備手法や校舎のレイアウト等について、もっと具体的に議論を進めていくべきではないか。他の校区で懇談会が設置されないがために取組が進まないのであれば、何のために我々が集まっているのか疑問に感じるところがある。</p>
事務局	<p>山滝校区懇談会において、小中一貫校設置に前向きな意見が多数を占めるということであれば、それも踏まえて教育委員会としても判断していく。一方、関係する校区において懇談会が設置できていない状況でもあり、全体の動向を踏まえ総合的に判断しなければならないと考えている。</p> <p>なお、学校の施設整備を行う中で、再編の取組を実施する学校については優先的に予算を確保していきたいと考えている。</p>
参加者	<p>現場の先生方は、再編の取組や現在の学校の状況についてどのように考えているのか。</p>
事務局	<p>各教職員が様々な意見を持っていると思う。一点、中学校の教員数で考えると、小規模の中学校では全教科の教員が配置されないため、免許外の教科を特別の許可を受けて指導するケースが出てくる。これは教員に負担が生じるだけでなく、結果的に子どもたちの学習環境にも影響が生じてくる。実際に現在の山滝中学校でも教員数が足りておらず、複数の免許を取得している教員を配置し、なんとか対応しているが、この状況は好ましくないと考えている。</p>
参加者	<p>少子化の影響を受け全国的に学校再編の動きが進んでいる中、岸和田市においても同様に取組を進めていく必要がある。今、取組を進めないと更に遅れを取ってしまう懸念がある。</p> <p>より良い教育環境が整備された学校であれば、再編の取組についても理解を示す地域住民もいると思う。</p>
事務局	<p>ただいまのご意見も含め、山滝校区懇談会の皆様においては（仮称）山滝小中一貫校の設置について、前向きにお考えいただいているものと捉えている。</p>
参加者	<p>実施計画（案）どおり検討が進んでいくことを望んでいる。</p>
参加者	<p>東葛城小学校の現在の児童数と、そのうち特認児童の割合はいかほど</p>

	か。幼稚園でも、校区外から通園している園児がいると聞く。
事務局	令和4年5月1日時点で東葛城小学校の全校児童は74名、そのうち3割強の児童が特認校制度を利用して通学している児童である。幼稚園については今年から園区制を撤廃しているので、基本的にどの幼稚園にも通うことができる。ご指摘のとおり、東葛城幼稚園では校区外から通園している園児も在籍している。
事務局	東葛城小学校において小規模特認校制度を導入するに至ったきっかけは、現在の山滝小学校と同様、複式学級の発生が見込まれたことにより、地域からの要望を受けて制度を開始したという経緯がある。 この複式学級については子どもたちの学習に非常に大きな影響を与えるものであり、大阪府においてはこれまでどの市町村も設置した実績がない。
事務局	少しまとめると、山滝校区懇談会においては（仮称）山滝小中一貫校の設置について、前向きにお考えいただいているものと認識する一方、仮に再編が予定どおり進まなければ山滝小学校の複式学級化といったことも目前に迫っている。今後の検討のあり方については、様々な状況を踏まえつつご相談させていただきたいと考えている。
参加者	今後の懇談会のあり方について、メンバーが困惑しているのは、先ほどからの意見にあったように、山直南校区の検討が進まない中、山滝校区だけで話を進めてもそれが果たしてどのように取り扱われるのかということ。どこをめざして何を話したらよいのかわからない。
事務局	承知した。次回以降のあり方や内容については改めてご相談の上、決定していきたい。
	以上